

マーケット概況（2020年3月）

3月の債券相場は、新型コロナウイルス感染症の拡大懸念からリスクオフの地合いが強まり、10年357回債の利回りは-0.165%に低下して始まった。3日にFRBが緊急利下げを実施したものの、世界経済の景気後退懸念は払拭されず、原油価格の暴落や米国10年債利回りが一時0.31%台まで低下したことを受けて、9日に債券先物3月限は過去最高値となる155円89銭まで上昇し、10年357回債の利回りは-0.200%まで低下した。しかし、13日に米国大統領が国家非常事態を宣言したことから、投資家による保有資産現金化の動きが急速に強まり、主要国で株価と債券価格が同時に下落する流れとなった。15日にFRBが更なる緊急利下げを実施し、日銀も16日に前倒しで金融政策決定会合を開催したが、円債に関する政策変更が見られなかったことから債券相場の売り圧力は依然として強く、19日に債券先物6月限は150円61銭まで下落し、10年357回債の利回りは0.095%まで上昇した。その後、23日に日銀が臨時の国債買入オペを追加し、24日にFRBが無制限の量的緩和を行うことが伝わると一転して買い戻され、26日に東京都知事が首都圏における外出自粛要請や都市封鎖について言及したことから債券相場は騰勢を強めた。月末にかけては、財務省が新型コロナウイルス感染症対策のために国債を増発する旨が報道されたことから弱含み、10年357回債の利回りは0.005%で月内の取引を終えた。

<短国市場>

月前半は追加利下げへの思惑の高まりや、ベシススワップ金利のマイナス幅拡大による海外投資家需要により、3M金利は大幅に低下した。6日の3M892回債入札は、最高落札利回りが-0.25%台と2019年10月以来の低水準となった。その後、リスクオフに伴う現金化の流れや、日銀が追加利下げを見送ったことから3M金利は次第に上昇した。月後半は、期末担保不足によるレボ金利の急低下に連動して3M金利は一時-0.475%まで低下したが、その後は日銀が国債売現先オペを連日実施したことで短期金利も次第に上昇した。27日の3M897回債入札では、最高落札利回りが-0.10%台に上昇し応札倍率も2.12倍と低水準となったものの、セカンダリー市場では持ち直し、最終的に-0.229%で取引を終えた。

<一般債市場>

新発10年政保債・地方債は国債金利の低下に伴い、昨年10月以来5ヵ月ぶりに絶対値方式で条件決定した。利率は前月債と比較し大幅に低下したが、国債金利のマイナス幅が深く、代替運用先としての需要から販売は順調だった。既発債は月央に国債金利が急激に上昇したことから、リスク回避的な売り利回り上昇のタイミングを捉えた買いにより売り買いが交錯した。社債は日立製作所・富士フィルムHDなど製造業の大型案件や、大和証券G本社永久劣後債などが起債額を押し上げ、3月の発行額としては高水準の1兆2,582億円となった。販売状況はまちまちであったが、下限利率の設定やPOT方式の採用などが好感され、高クーポン債や希少銘柄を中心に需要を集めた。

◎ 主要債券月間四本値 ◎

銘柄	始値	高値	安値	最終出来値
#357	-0.165(2日)	-0.200(9日)	0.095(19日)	0.005(31日)
#356	-0.175(2日)	-0.200(9日)	0.080(19日)	0.000(31日)
#347	-0.285(2日)	-0.395(9日)	0.015(19日)	-0.145(31日)
#142(5Y)	-0.285(2日)	-0.330(9日)	-0.040(19日)	-0.140(31日)
#171(20Y)	0.155(2日)	0.100(9日)	0.340(19日)	0.310(31日)
#893TDB(6M)	-0.310(9日)	-0.348(25日)	-0.225(13日)	-0.340(26日)
#891-#897TDB(3M)	-0.199(2日)	-0.475(24日)	-0.140(27日)	-0.229(31日)